

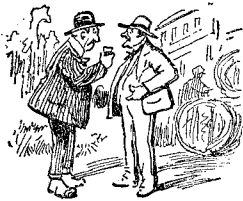
天 界

第九十五號

(第九卷)

昭和四年三月

〔此の頃の話題〕



地球の自轉速度が變動する。—— 言ひ換へれば、吾々の「一日」の長さが變るこいふ事である。永い昔から天文學者は此の地球の自轉が一定不變の速さであるを信じてゐた。又、實際、之れが變動するにしても、研究に使用する標準が人の作つた時計である以上、到底此の自轉變動を見付け出すことは出来ないものだこいふ諦めもあつた。しかるに、二三年前から、月の運行や、其の他、太陽、水星、金星、火星等々の諸天體の運行の中に、共通して、一種異様の變動が認められ、遂に之れは我が地球の自轉變動に歸すべきものとなつて來た。—— 此の新事實の發見が影響する所は大きいだらう。殊に之れは、天文學以外にも、地球上のいろんな學術方面に關係は大きからう！

南洋の五月の日蝕に、諸國からの觀測隊が動き始める。英國から二隊、ドイツから三隊、フランスから一隊、アメリカからは四隊か五隊、濠州からも一隊、オランダから一隊、イタリから一隊。そして我が日本からも二三隊！

アメリカの天文家たちは、はや既に 1632年の日蝕の計畫をしてゐる。

英國では、グリニチ天文臺長や、ターナー博士等の主唱で、「午前午後」無しの日24時間制を使用せよこいふ大宣傳が始められた。保守主義の英國にも此の聲が掲げられる時代が來たのである。遂には米國も日本もだらう。